

## 令和3年度第1回障害者支援センター運営委員会議事録

■開催日：令和3年6月28日（月）14時～16時

■場所：横浜市健康福祉総合センター8階 8AB

■出席者：委員総数17名中16名出席

茨木委員長、井上委員、野々垣委員\*、松島委員、渋谷委員、永田委員、大友委員、  
山田委員、熊坂委員、長谷山委員、下山委員、谷口委員、早坂委員、室津委員、  
笠原委員\*、小久保委員（\*オンライン参加者）

（オブザーバー）

横浜市2名（障害施設サービス課：品田係長、福祉保健課：松島係長）

■欠席者：井上委員

### ■次第

#### 〔知久事業推進課長〕

センター長が交代となり、内嶋センター長が就任された。挨拶状を席上配布させていただいた。あわせて、人事異動等についても紹介させていただく。

#### ○人事異動紹介

障害者支援センターセンター長の交代、障害者支援センター職員の異動について報告。

#### ○オブザーバー参加者の紹介

#### 〔内嶋センター長〕

前任の森センター長より引き継ぎ、センター長を拝命いたしました。引き続き、センター長として責務を果たして参りたい。どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

#### 〔知久事業推進課長〕

定足数を確認し、運営委員会の成立を報告。以降の議事進行は茨木委員長にお願いする。

#### 〔茨木委員長〕

久しぶりに対面で会えて、嬉しく思っている。コロナの影響も2年目に入り、皆様本当に苦労されていると推察している。障害福祉の現場は予防がなかなかできない中、日々過ごしておられる。そういうことを社会に発信していくことが支援センターの大事な役割である。本日は多様なご意見を出していただいきたい。

### 1 協議事項

#### (1) 令和2年度障害者支援センター事業報告及び決算について

別冊資料に基づいて、事業報告と決算について説明。

#### 〔大貫事務室長〕

別冊資料の1～3ページに基づいて、事業報告概要について説明。

#### 〔各課長〕

別冊資料の4ページ以降について、各事業の所管課長より説明。補足事項は以下のとおり。

#### 1 障害児地域訓練会運営費助成事業

〈内訳〉表中の区分「A」と「D」のところでは要件の緩和があり、例年の半分の回数で助成要件を満たす基準となっている。

#### 2 障害者地域活動ホーム事業

生活支援事業の実施回数がコロナの影響で減少した事業所がある。そういうところは、一昨年の実績を利用して請求してもよいことになっている。

港南福祉ホームとふたまたがわで大規模修繕を行った。

#### 3 地域活動支援センター事業障害者地域作業所型運営費等助成事業

「運営費」のところでは、コロナの影響を受けて特例適用があり、通所できない利用者へ電話連絡等できちんと支援を行えば、通所したと見なせる算定ができるようになった。そのおかげで大きな影響なく、事業実施することができた。

新設1か所あったが、移転はなかった。

#### 5 販路拡大事業

今までなかったマスク等の大口の注文があり、総売り上げ高はほぼ例年並みの売り上げだった。

#### 6 在宅障害児者家庭援護事業

回数が「0」の団体もあり、コロナで利用回数に影響が出ている。例年の1/3程度の実績になっている。

#### 7 研修事業

コロナの影響で中止とした研修もあったが、オンラインを活用しながら実施した。「グループホーム職員向け研修」は、新型コロナウイルス対策研修として、関係団体・職員へも対象を拡大し、実施した。

#### 8 障害者福祉団体活動支援事業

決算額は3月末時点での令和2年度決算額となっている。清算後、返還金が生じた場合は、過年度返還金として、横浜市へ追加で返還していく。

#### 9 地域活動支援事業

令和2年度巡回相談新規登録として、「医療・保険・栄養相談」「言語聴覚療法相談」「税務相談」あり。

#### 10 療育検診活動事業

Zoomによるリモートを活用し、音楽療法を継続させ、事業実施いただいた。

#### 11 啓発活動事業

コロナの影響で、「広報誌」については、取材活動ができなかったため、年4回予定が1回減になっている。「感謝のつどい」について、式典と懇親会は中止とし、感謝状と記念品の贈呈を行った。「障害理解啓発用リーフレット」では、部会として集まったの活動はできなかったが、増刷し、関係団体等へ配布した。

#### 12 調査研究事業

コロナの影響で懇談会や研修会が中止となった。

#### 13 人権擁護事業

コロナの影響でモニター活動は中止となった。コロナ禍での活動の在り方について話し合うため、委員会では実施し、オンライン等を活用し、令和3年度は再開していくこととなった。

#### 14 助成団体監査事業

地域訓練会監査は書面監査にて実施し、家庭援護事業助成団体監査は中止とした。例年に比べ、監査の実施回数は2/3程度になっている。また、緊急事態宣言期間中は実施を中止した。

#### 15 地域活動支援センター作業所型等賠償責任保険事業

支払い件数3件は、作業で出向いた先でガラス製の品物を破損、事業所内で利用者同士の接触し、転倒したことによるものであった。

#### 16 「セイフティーネットプロジェクト横浜」支援事業

具体的な活動はコロナ禍で難しかったが、災害用コミュニケーションボード・啓発チラシ、リーフレットの増刷を行い、周知を図った。

#### 17 福祉バス運行事業

例年の10%以下の実績であった。感染防止対策は現在も継続して実施している。

#### 18 障害者後見的支援事業

登録者数は、前年から56名増加になっている。令和元年度は前年から181名増加であった。コロナの影響で登録者との面談や訪問が限られ、若干少なくなっている。この間、各支援室で登録者の整理や新しくオンラインの活用を進め、今年度に入り、登録者は増えてきている。

「あんしんノートの書き方講座」では、令和元年の92名からは会場のスペースの関係で減ってはいるが、39名の参加があった。

#### 19 よこはま障害者共同受注総合センター(わーくる)事業

コロナの影響で販売や受注機会は減少となった。その中で、新規に28か所の登録があった。受注件数も前年より20件近く増えた。

#### 20 移動情報センター運営事業

推進会議の中止もあったが、各区へ出向き、課題の把握・整理を進めた。

## 21 横浜あゆみ荘事業

横浜市からの要請により休館期間があった。再開後は養護学校等大人数で利用される学校のキャンセル等が相次ぎ、利用者が大幅に減少した。暑中見舞いの送付や GO TO トラベル事業を開始。85 組の利用につながった。食事メニューや客室の改善、感染防止対策等サービス向上に努めた。

### 〔知久事業推進課長〕

別冊資料の38～45ページに基づいて、決算を説明。

### 〔茨木委員長〕

ご質問・ご意見等いかがか。

### 〔熊坂委員〕

P45 の決算内訳について、年度ごとに事業配分がどのように変わっているのか、固定額のもの、事業内容によって変わるもの、ざっくりとよいので、教えてほしい。

家庭援護事業について、現場としては非常にありがたい支援である。申請も難しい、面倒、新しい人が追加されない一方、何十年も使っている人もいる。間口を広げて多くの方が使えるようしてもらえないか、また増額がもっとできないか。

### 〔知久事業推進課長〕

ほぼ変わらない傾向がある。地域訓練会、活動ホーム、地域活動支援センター、グループホーム等は箇所数・団体数で補助金が上限するため、例年ほぼ同じような額になってくる。

家庭援護事業においても、例年あまり大きな動きはないのが実情である。例えば、セーフティネットでボードを大々的に広げる時等は増えたりする。

### 〔田中支援課長〕

グループホームや作業所の数自体が減っているため、少しずつ減っている傾向がある。移動情報センターや後見的支援事業等支援センターが行う事業の割合が増えてきている。A 型グループホーム4館も今年度中に移行となるので、減少傾向にある。

### 〔知久事業推進課長〕

家庭援護事業について、なるべく使いやすいように3時間を1単位とし、1時間単位に変更した。報告書も細かく書いてもらっていたが、簡潔なものに今年度から変更した。工夫はしているが、コロナの影響は思っていたよりも大きかった実感がある。引き続き、使いやすい事業になるよう工夫をしていきたい。「こんなケースでは使えないのか」等個別のケース相談もいただいているので、「こういう考え方で使えます」等具体的なことを団体に知らせる取り組みもしていきたい。増額については横浜市と相談になる。

### 〔大貫事務室長〕

福祉バスの運行、実績に合わせて数百万単位で減ってきていたが、移管に伴い、予算を減額が止められた。また、運営費の助成について、法定事業へ移行した事業所への助成はしていない。移行に伴い、実

際は減っている。家庭援護事業について、横浜市に相談していききたいが、コロナの影響で残高が大きくなっている。この状況から予算を増やすことは難しい。使い勝手を考えていきたい。

#### 〔茨木委員長〕

国事業へ移行する方向性があると思うが、横浜独自のニーズがあって残ってきた事業の中で、国事業との差別化が大事だと思う。家庭援護事業も国のヘルパー派遣事業より融通が利いていたり、家族にニーズに添っていたり、個別性が尊重できたり、なぜこの事業が大事なのかを訴えていくことも大切である。制度化されると自治体が作ったものが移行されてなくなってしまうことが他の自治体でもある。残すべき事業は独自で残していき、国事業がやせ細ったときに消えてしまわないようにしないといけない。パンフレット等あればよいか。

他にはいかがか。

#### 〔室津委員〕

グループホームで本来A型の予算を残したいが、もとの運営委員会型までは補助金が上がり、国の制度にいかざるを得ないということですと減ってきて、昨年度、元運営委員会型が今年度でなくなることになっている。市からくるお金はA型の支援のために支援センターにお金がきている。A型がなくなるとグループホームへの支援が非常にやりにくくなるだろうと思う。元A型は支援センターの支援があってかなり成り立っている。ここで支援センターの支援が少なくなると、かなり危うい状態になることが予想される。そこに関しては、元A型の支援を引き続きできるようにしてほしいと思っている。小規模の運営委員会では運営がかなり大変だろう、気持ちはあるが運営実績がない人達は支援センターが手伝うことで当事者や家族が中心になって運営をすることができてきた。運営の弱さは、運営委員会型がNPO法人になったからといって強くなるものではない。小規模なので、運営の中心になっていた人が急に倒れることがあると、運営の経験がない人が突然管理者になることが起きてくる。今、グループホーム連絡会でも支援センターと一緒に調査を行っているが、きちんと運営の引継ぎができていいのか、管理者として何をやればいいのかをどれだけ理解できているか危ういところがあると思っている。そこをこれまで支援センターが手伝っていた。そこがなくなるとかなり厳しい。小規模で運営が厳しいところに関する支援を強めていかないとグループホームの運営が立ち行かなくなってしまうところが出始めている。ぜひ支援センターとしてやっていただきたい。

#### 〔田中支援課長〕

A型は残り4館となっているが、今までも支援してきたところについて、手を引いてきているところはない。家族、当事者が立ち上げてきたことを支援することが本来業務だと思っている。これからも支援センターとしてきちんと支援をしていきたい。ただ、事業計画等で見えづらくなってくるので、相談していききたい。

#### 〔室津委員〕

支援センターの努力だけでなく、小規模グループホームへの支援センターの支援の位置づけを何となくではなく考えていただきたい。

#### 〔大貫事務室長〕

ぜひ今まで通りきちんとやらせていただきたい。意向は横浜市へも伝えている。ただ、きちんとした仕組

みとして作らないといけない。大友会長からは精神の部分もぜひと言われている。皆様の協力もぜひお願いしたい。

#### 〔茨木委員長〕

制度化されていく中で小さなところ、家族、当事者がやってきたものの良さが失われていく可能性がある。全国的にもグループホームは株式会社や大規模法人がいくつも経営する等、スケールメリットがあるところがどんどん吸収していくところもある。グループホームの良さは小規模なところにもあるので、安定して運営できるサポートも支援センターの役割だと思うので、違う形で事業として続けていけるとよい。

他にはいかがか。

#### 〔山田委員〕

研修事業の中で横浜市に返還になったお金がある。障害を抱えた当事者の話を聞く研修等、ピアサポート協会で担い手になれる人がたくさんいる。簡単に中止し、予算を返還せず、実施する方向でお願いしたい。

#### 〔田中支援課長〕

昨年度は中止にせざるを得なかった研修が多かった。講師側の問題ではなく、職員が勉強しながらオンラインの方法を検討して進めていたので、すぐには対応できず、結果中止が多く発生した。今年度は基本中止にせず、オンラインを活用し、予定どおり回数を進めていきたい。

#### 〔山田委員〕

ぜひ継続してほしい。悩みがあれば、相談してください。

#### 〔茨木委員長〕

他にはいかがか。

#### 〔大友委員〕

障害者支援センターになってから何年ぐらい経つか。17年か。3障害一体を具体的に進める、社協の中の障害者支援センター、もう少し社協として精神障害者の問題に取り組む体制を作ってほしい。精神障害者が利用できる仕組みも少しずつは増えているが、まだまだか。巡回相談事業について、600万円返還があった。福祉事業者はIT弱者なので、各事業者がIT専門の相談に乗れるところを巡回相談の中に作ってもらえないか。精神障害者の地域作業所は横浜市から独自に助成金をもらっていて、支援センター経由ではないが、ぜひとも支援センター経由にしてほしい。支援センターが精神障害者問題にも取り組めるようにしてもらいたい。国制度に移ったグループホーム、小規模で運営することになっても、NPO 法人自体が財政基盤が弱く、必ずしも運営のノウハウをちゃんと持っている訳ではなく、職員確保、運営体制もかなり厳しいのが現実である。制度があってもなかなか人材の確保が難しい。第4期障害者プランの中で、どういう風にしたら人材確保ができるのか大きなテーマになっている。人材確保をどういう風にするか、支援センターとしても考えていってほしい。具体的に提案しているのが、横浜市、福祉系の大学、事業者の3者が一緒に

なってリクルートを話し合っではどうか。大学の学生食堂にグループホームのバイト案内を出したり、施設見学の巡回バスを走らせる等検討中。求人する側、就職する側、横浜市、大学、事業者で検討したい。人材確保の面で支援センターにも検討してもらいたい。販路、販売先確保が難しい。工賃アップについて何かできるか、検討を重ねていきたい。

#### 〔大貫事務室長〕

3障害一体、精神は横浜市が直接している。体制の関係もあるが、3障害でやるべきだと私は思っている。横浜市としても協議していきたい。ICT 専門の巡回相談の件もぜひ相談させてほしい。福祉の人材育成、社協も人出不足。横浜市にも入ってもらって一緒になって考えていきたい。販路拡大、工賃アップについては、国補助、市委託で共同受注を実施している。工賃アップというよりも今は仕事の確保が必要な状況であるが、本来の工賃アップを見据えて事業展開していきたい。

#### 〔茨木委員長〕

障害者支援センターは今後どういう形で家族、当事者の事業・運動を支えていくか、この中でも考えていければよい。Wi-Fi 整備等、他の自治体でも格差が出ており、どこまでバックアップするか議論になっている。横浜でも補助等体制ができるとうい。小さいところ程、大事になってくる。

#### 〔谷口委員〕

国事業へ移行していく中で、小規模で頑張っているところは支援センターに支援してもらっているので、今後も支援していただけるよう予算をつけて続けてほしいと強く思っている。コロナの影響が出ている中、支援センターの職員が色々調整してくれて、決算が黒字でよかった。

#### 〔茨木委員長〕

今年もコロナが続くが、皆様と協力してやっていきたい。

ここで協議事項(2)に移らせていただく。それでは、機関紙「お元気ですか」リニューアルについて、事務局より説明いただきたい。

### (2) 機関紙「お元気ですか」リニューアルについて

#### 〔田中課長〕

別紙資料に基づいて、機関紙「お元気ですか」リニューアルについて説明。

#### 〔茨木委員長〕

ご質問・ご意見等いかがか。ここで決めるのではなく、各委員の意見を出してもらい、次回事務局として案を出していきたいということである。発注する企業、関係団体が増えているので、そこへも発信できないかという意見もあった。

#### 〔大友委員〕

なぜリニューアルしようと考えたのか。発行部数はどれくらいか。HP に誰でも見られるようオープンにしているのか。

#### 〔田中支援課長〕

ずっと続けてきたものを切りがよい号数で一旦見直す機会としてもよいのではないかと、見直した結果、今の形がよいということであればもちろんそれを継続していくことも含めて考えている。必ず変えることをリニューアルと言っている訳ではない。200号を機にいったん立ち止まって、振り返ってみたい。どういう位置づけでどういう形で行っていくか、ご意見をいただきたい。発行部数・発行先は資料のとおり。HPにもPDFにして掲載している。

#### 〔永田委員〕

見たことはある。写真付きの方がわかりやすい。最近の号の方がいい。カラーの方がいい。

#### 〔下山委員〕

会にまとめて送ってもらっていて、定例会で会員に渡していたが、コロナで定例会での配布ができなくなってしまった。送ってもらったものが渡せないままになっている。HPにアップされているので、アップされたことを会の事務局から配信してもらい、読むようにしたいと今年度は考えている。紙で読むことが好きなので、紙で読みたい人も多いが、アップされていることを知らない人もいる。PDFではなくて、もっと動画を入れてはどうか。オンラインの活用の必要性を感じているので、紙媒体も絶対活かしてほしいが、写真を大きくとか動画があるとより楽しく読めると思う。配付よりも広く知ってもらうには有効ではないか。

#### 〔茨木委員長〕

小さい団体の紹介は動画があるとわかりやすい。訓練会の活動も知らない方に伝わりやすいか。

他にはいかがか。

#### 〔熊坂委員〕

今日の議題にあわせて会員にアンケートを取ってきた。もっと現代版らしくしてほしい、一方、子供たちが読んで喜んでもらえるまでに成長してほしいと両極端であった。もう一つは、形はこのままでよいが、ファイルに閉じやすいようA4左綴じで横書きにしてほしい。縦に動かすのはある年齢以上、60歳以上の方。やはりオンラインでのアップは続けてほしい。

#### 〔松島委員〕

災害で避難するような時に、地域のサポートが大事。障害者が困っていることを知らない人が多いと思うので、わかってもらえたらよい。民生委員にも配ってもらえるとよいと思う。

#### 〔山田委員〕

ここでは障害を抱えている方は支援をいただいている方というイメージがとても強く、私含めてピアサポート協会は何とか障害を持っていても立ち上がろうという意欲を持った持ち主である。そういった人の存在が

目立つようになればもっと面白くなると思っている。読者層を考えた時に障害者の法定雇用率が引き上げになったり、SDGsが出てきたり等、社会との調和が考えられるようになってきた。一般企業側が見て、障害者を支えるヒントになるようなコンテンツになるとよい。当事者の力が企業に伝わるとよい。

#### 〔渋谷委員〕

若い人達にも手に取ってもらえるような紙面づくりをしてほしい。

#### 〔室津委員〕

「わかりやすい版」をルビ、分かち書きを含めて作ってほしい。横浜市HPにもやさしい日本語版がある。両方作るのが難しい場合は「わかりやすい版」だけ作るとよい。できれば2つ、できなければ「わかりやすい版」のみはどうか。

#### 〔笠原委員〕

「わかりやすい版」は誰かがやらなければなかなか広まらない。1つの案に付け加えてもらえたらよい。(インクルージョンを進めるためには、障害に関心のない、あるいは関心をもってくれそうな層の(もつといえれば関係者も含み)「障害」に対する認識を変えていくような働きかけが必要です。そのためには、広報のターゲットを変える、当事者性を前面に出す、障害についての新しい認識を広げるような企画という提案に賛成する。「わかりやすい版」の刊行物を定期的に出しているところは少ないので、実現すれば、支援センターの当事者性、先駆性という点でも合致していると思う。・人材不足に対する広報やイメージ戦略として、学生を含む若い世代にとっては、インターネットでの情報収集、動画が当然になっている。こちらも工夫ができればよいと思う)

#### 〔大友委員〕

障害者支援センターには当事者性、開拓性、運動性の3つの理念がある。この理念を今の時代の中で生かしてほしい。当事者も団体もたくさん活躍している。そのことを毎回大きなテーマとして取り上げてほしい。いっぱい活動していることを押し出してほしい。3障害1体の方針を明確に出してほしい。「わかりやすい版」「通常版」と年2回は民生委員に全区配布する等、作り方に変化を持たせてはどうか。

#### 〔知久事業推進課長〕

次号にて読者アンケートも実施していく。運営委員の方も何かあればぜひ伝えてほしい。

### 3 その他

#### 〔茨木委員長〕

その他について何かあるか。

#### 〔知久事業推進課長〕

今回の令和3年度第2回運営委員会については、11月29日(月)または12月6日(月)または午後2時から予定させていただきたい。オンライン参加も可能とする。日程は決まり次第、連絡させていただく。

〔茨木委員長〕

皆様から他になければ終わりとしたい。